

の課題が残る。本研究班で行われている全数調査の結果なども併せて、今後も引き続き慎重に解析・評価していかなければならないと考える。

2007年、2008年にみられた性器ヘルペスの微減は、昨年とははっきりしなかった変化である。この状況はほとんど全ての年齢群にみられており、2006年4月に届出基準の中に「明らかな再発例を除く」という文言が書き込まれたことの影響とも考えられる。一方、再発例を除くという変更点の認知については、2007年に行った限定的で非定量的な調査ではあるが、協力を得られた自治体からSTD定点へ、40歳以上の報告について初発例かどうかを再確認してもらった結果、この加筆修正を知らなかった定点医療機関の医師もおり、また、「初診なのでわからない」「問診していないのでわからない」などから、結局は「明らかな再発例かが不明なので届出対象と判断」となるというものが少なくなかった。また、定点医療機関では、カルテなどから診断医師以外の者が届出用紙に転記する場合もあり、カルテには初発、再発の区別なく記載されている場合も多いと考えられた。定点医療機関の指定を依頼する場合には、届出基準を周知徹底することも必要である。さらに、初発例のみのサーベイランスとするか、初発例のみを把握するための方法や届出基準の文言修正なども検討する必要があるだろう。いずれにしても、性器ヘルペスの微減は、微妙といえる傾向なので、今後も慎重な監視が必要である。

男女比を経時的変化にみているが、1999年に女性の比率が突然高くなったことについては、診療科の構成が変わったことが原

因と推測されるが、2006年3月までは、定点の診療科に関する情報は把握されていないので、この点は推測の域を出ない。患者数の男女比をみるにあたっては、性感染症定点の診療科の比率の影響を受ける可能性に注意しなければならず、現状の定点把握のデータのみから、各疾患の患者数の男女比を論じることは困難と考える。

STD定点数とその診療科分布については、自治体によりその増減は様々である。定点数は全国的には1999年855から2007年968へと増加傾向が認められた。また、2008年1～12月の平均定点数966についてみた診療科の内訳は、産婦人科系（産科、婦人科、産婦人科の合計）464(49%)、泌尿器科397(41%)、皮膚科91(9%)、性病科14(1%)であった。この診療科の内訳（比率）の妥当性については、本研究班で実施された全数調査における報告医療機関の比率なども参考にして今後の検討課題としたい。男女それぞれの受診する診療科の違い、発見患者のパートナーへの診療の有無などがあり、地域における診療科別医療機関数なども考慮する必要があると考えられ、男女を平等に捕捉できるような定点配置を考案することは非常に難しい。また、若年齢層の罹患状況の把握が不十分との指摘もあり、その真偽を含め、どうすればそれが可能なのかを検討していかなければならない。地域の実情に応じた定点設計（指定）を考えることが重要であり、その際には、性感染症対策上不可欠な、発生状況の把握が適切にできるよう、性感染症の診療を行う医療機関の設置状況（人口対医療機関数）や、個々の医療機関の特性なども踏まえて行うことが必要と思われた。このような地域におけ

る定点把握の充実は、国全体の発生状況の的確な把握にもつながるものと考えられる。

## 2. 梅毒の動向

梅毒の発生動向については、総報告数は2004年から、早期顕症は2003年から、無症候は2005年から増加傾向が認められた。

無症候の届出基準では、カルジオリピンを抗原とする検査において16倍以上またはそれに相当する抗体価であることとされており、これは陳旧性の無症候梅毒を除外するためである。2003年4月から、地方感染症情報センター・保健所に協力を求め、抗体価不明の無症候梅毒の1例毎について、届出基準に該当するものかどうかをできる限り再確認を行い、基準を満たしていない場合には届出を取り下げさせていただくようにした。その結果、50歳以上の年齢群の無症候梅毒の報告数の減少が認められた。早期顕症の増加傾向と逆の無症候の2003年および2004年の比較的大きな減少に関しては、この働きかけの影響が考えられた。またこの結果から、16倍という値が陳旧性梅毒の判断に妥当な値と考えられた。

2008年の報告数は今後変わる可能性はあるが、2004年から2008年の4年間に報告数は約1.5倍に増加した(増加率36.8%)。2007年の報告でみたわが国の梅毒罹患率は人口10万人対0.57人であった。梅毒はHIV感染の独立したリスク因子との報告もあり、今後、他の性感染症の報告数との比較や、重複感染の可能性を含めて、梅毒の報告数の推移の観察は重要である。

男女別にみた病型分布と年齢群別病型分布、病型別男女比をみると、無症候での女性の比率が他の病期に比べて高く、特に20

～30代の報告数が多かった。この点については、無症候梅毒の発見の機会として、他の性感染症罹患による受診時、献血、手術前、施設入所前などの検査が考えられる他、女性では妊婦健診、また、風俗店従業員が健診として検査を受けることなどの影響が考えられる。また、早期顕症Ⅰ期とⅡ期の比率をみると、男性に比して女性はⅡ期の診断がより多かったが、これは初期硬結などのⅠ期症状は女性では自覚されにくく、ばら疹などのⅡ期症状の出現により受診することの影響が考えられる。

無症候梅毒及び早期顕症梅毒の年齢群別報告数の年次推移では、2004年と2007年に報告数の比較において、男性では45～49歳、55～69歳、75～79歳、女性では20～24歳、35～49歳、60～69歳で報告数の増加が大きかった。比較的高齢層の無症候には陳旧梅毒が含まれていることが考えられる一方で、年齢群別病型分布をみると男女ともに70代の早期顕性梅毒が報告されている。また、2006年は女性の早期顕症の報告数のピークが15～19歳(20例)であったことが特筆すべき結果であった。2006年に無症候を合わせ24例だったこの年齢群の報告数は、2007年には10例に減少したが、2008年は20例の報告があり、梅毒感染の若年齢化が危惧される。報告数の多い世代への対策を考えることが優先ではあるものの、幅広い世代に対する対応が必要と考える。

先天梅毒の報告は減らない状況であるばかりか、2006年10例、2008年9例などそれ以前の報告数よりも小数とはいえ多くなっている事は注目すべきである。先天梅毒発生の背景として、出産可能年齢女性にお

ける発生状況をみると、特に増加率の高い20～24歳をピークに20代、30代の報告数は多く、また40代も併せ増加傾向がみられており、先天梅毒の増加が懸念される。妊婦の未受診、発見されても治療を中断、初期健診の段階では感染していなかった妊婦のその後の感染など、先天梅毒発生の危険因子に関する情報の把握が、対策を考える上で必要だが、現在の届出様式では十分に把握できない。この点についての早急な検討が必要である。

都道府県別報告数では、東京都の報告数が際立って多く、次いで大阪府、愛知県と大都市を抱える都道府県の報告が多い。一方、罹患率では、熊本県、香川県、高知県が高く、報告の限りにおいて地域差が認められていた。2004～2008年の5年間に報告のなかった自治体はなかったが、5年間の合計が10例未満の都道府県が4県あり、梅毒が全ての医師に届出義務の課せられた全数把握疾患であることの周知徹底の必要性を考えさせられる結果であった。適切な性感染症対策を進めためには、正確な発生状況を把握することが不可欠である。そのためには、今後、性感染症学会のみならず、産婦人科、泌尿器科、皮膚科などの関連学会や医師会を通じ、梅毒が届出義務のある感染症であることの広範な周知が必要と考えられた。

#### E. 研究発表

1. 多田有希. 日本性感染症学会第21回学術大会—シンポジウム「STDサーベイランスを考える—サーベイランスから実態をどこまで把握できるか—」(梅毒) 2008年12月. 東京

2. 多田有希. 日本性感染症学会第21回学術大会—シンポジウム「梅毒血清反応の問題点」(感染症法に基づく梅毒発生届けにおける問題点) 2008年12月. 東京

#### G. 知的所有権の取得状況

なし

図1-a.感染症発生動向調査による定点把握性感染症の年次推移(男性)

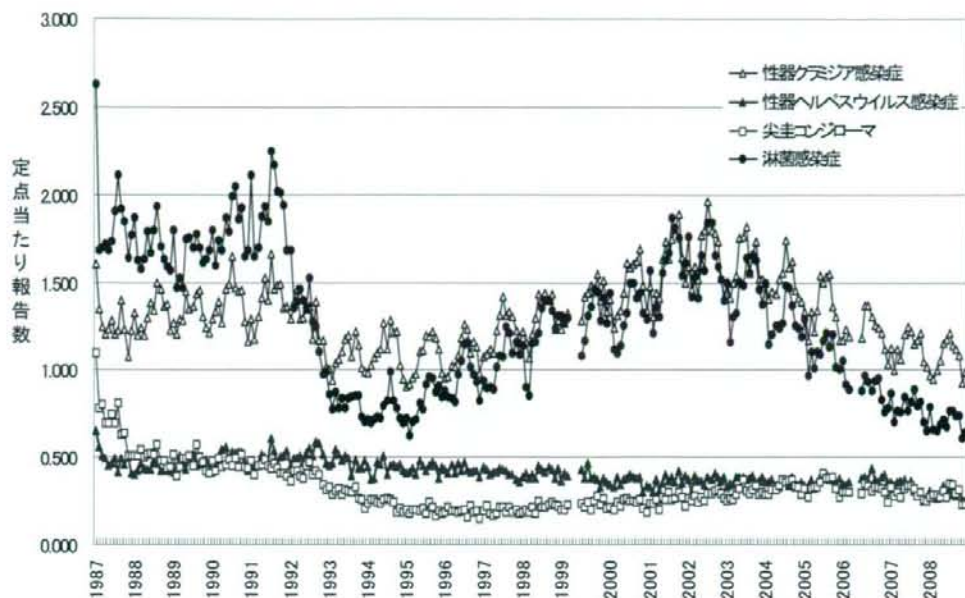
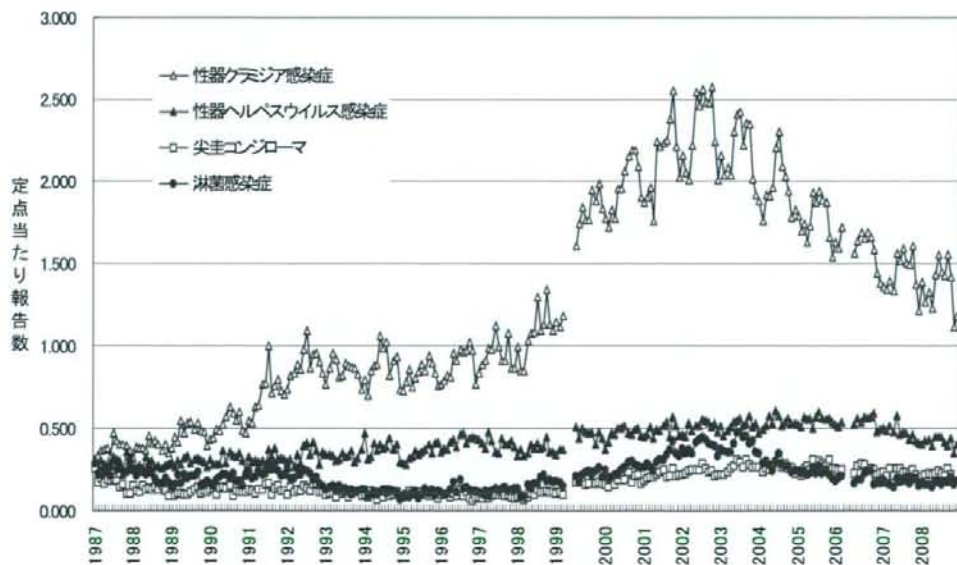


図1-b.感染症発生動向調査による定点把握性感染症の年次推移(女性)



2009年1月13日現在

図2-a.感染症発生動向調査による定点把握性感染症の年次推移(男性)

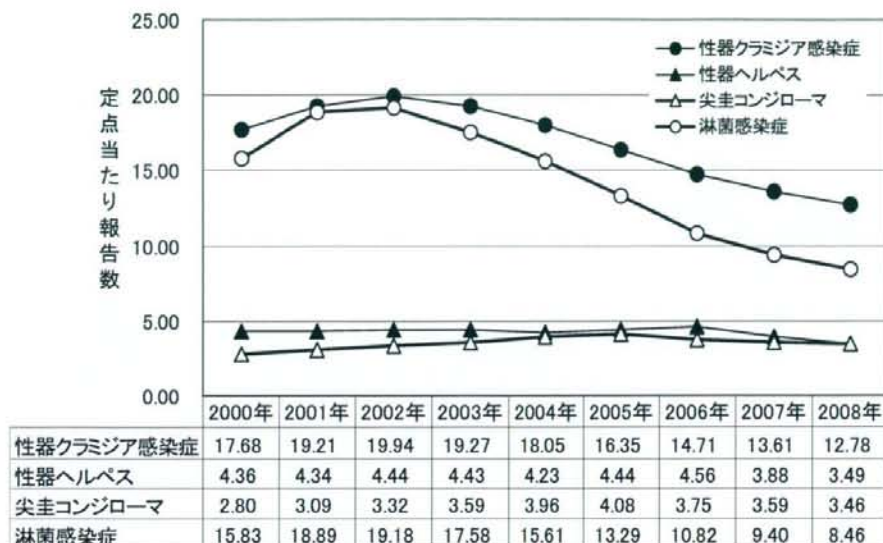
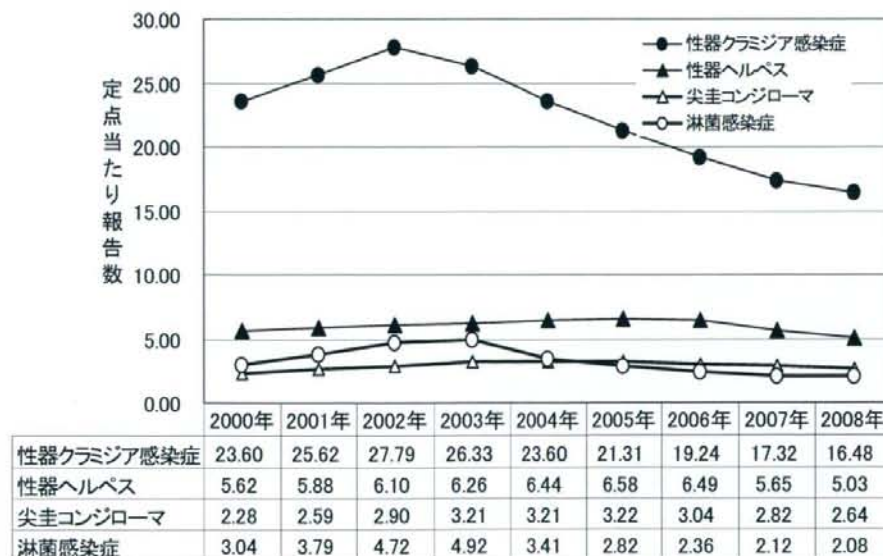


図2-b.感染症発生動向調査による定点把握性感染症の年次推移(女性)



2009年1月13日現在

図3. 感染症発生動向調査による定点把握性感染症の比率の年次推移(1987～2008年)

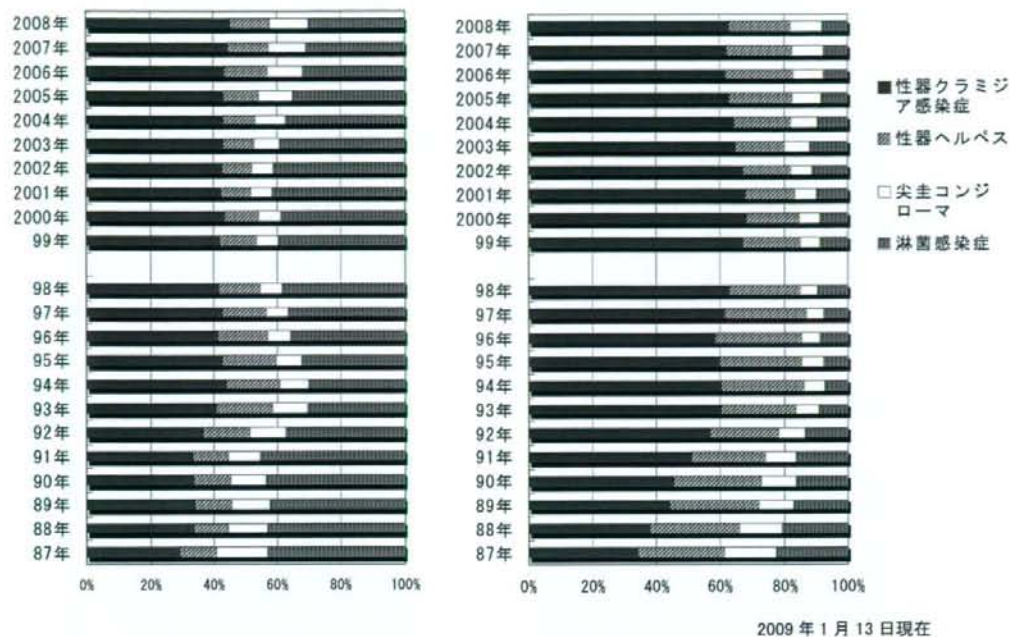
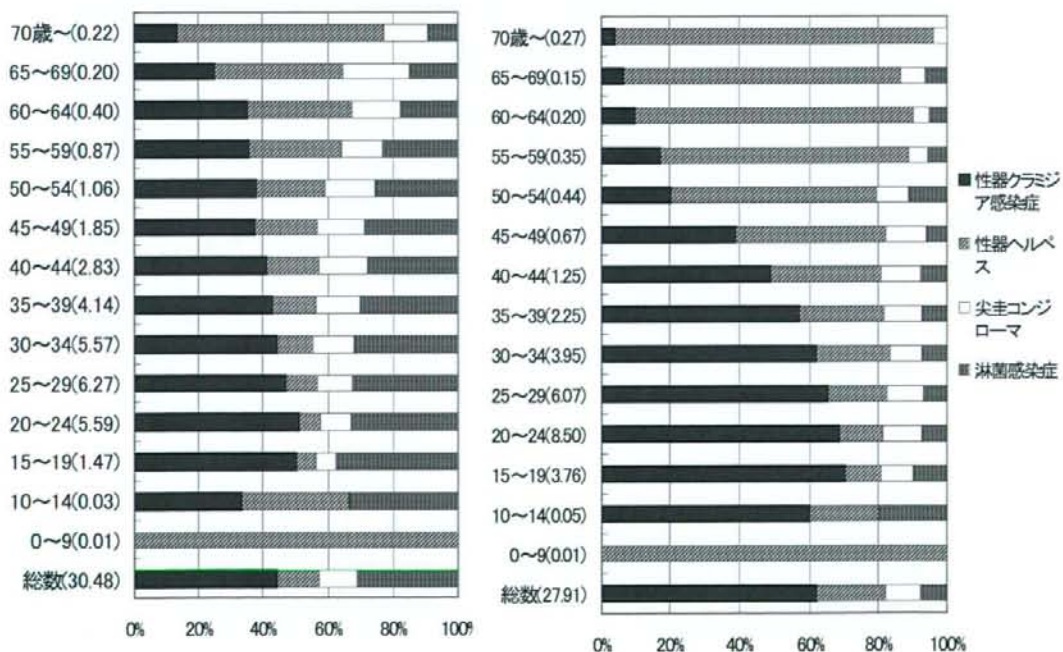
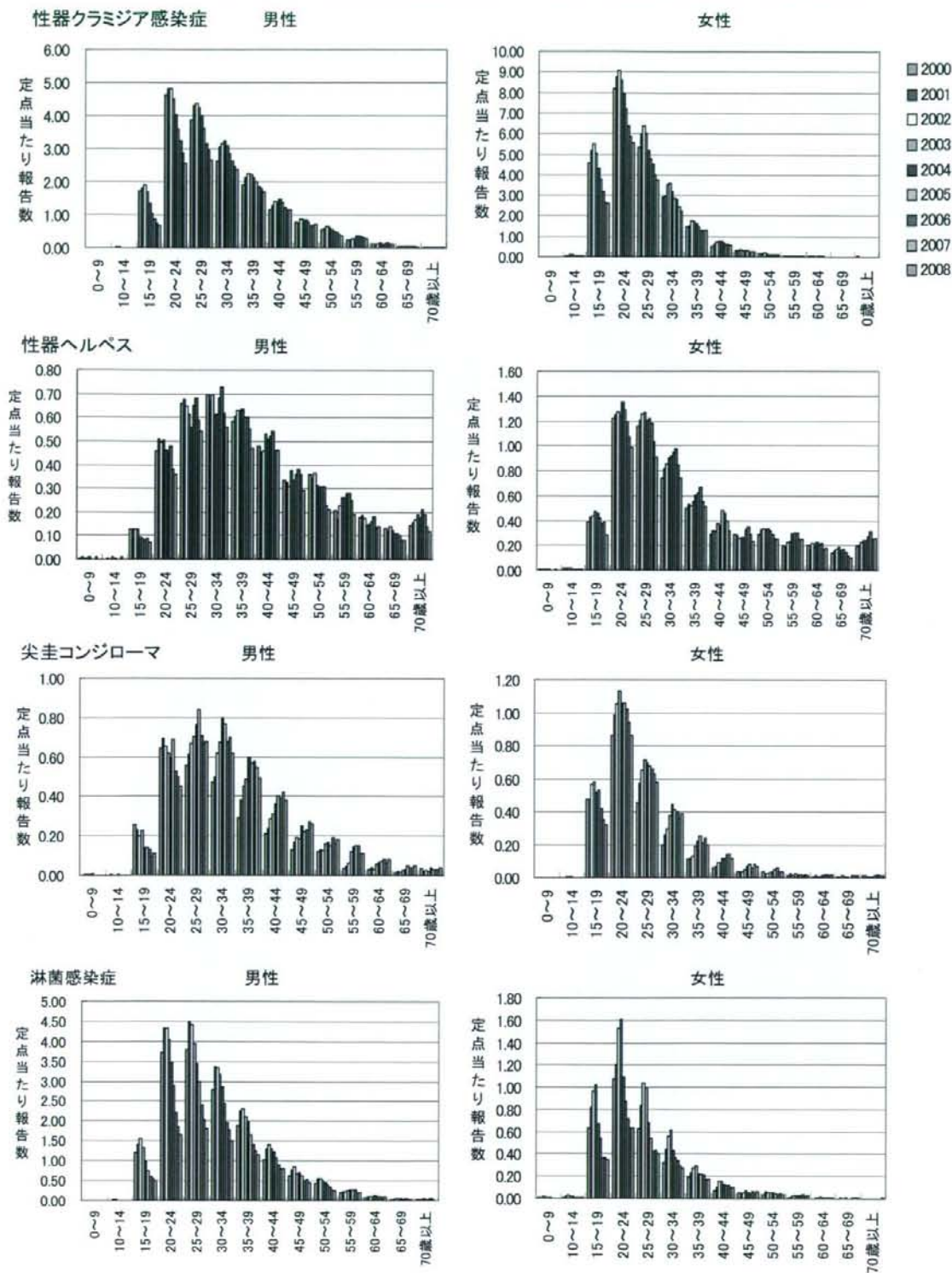


図4. 感染症発生動向調査による年齢群別にみた定点把握性感染症の比率(2007年)



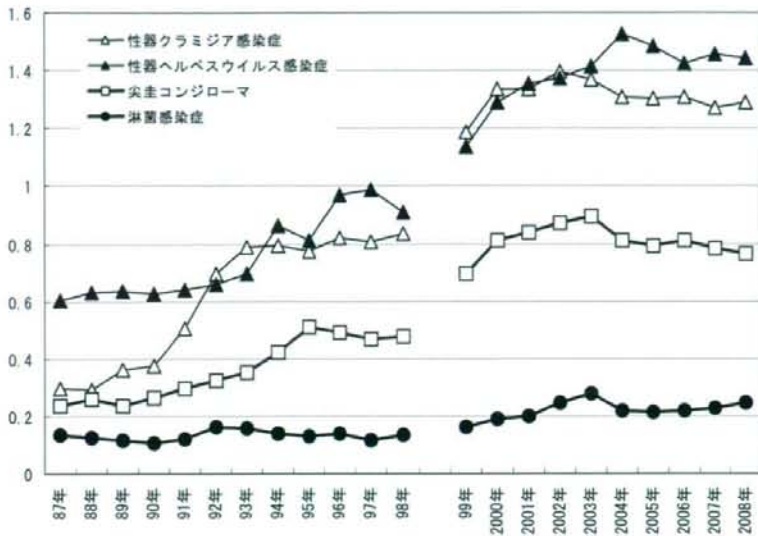
( )内は定点当たり報告数

図5. 感染症発生動向調査による定点把握性感染症の年次別・年齢群別定点当たり患者報告数



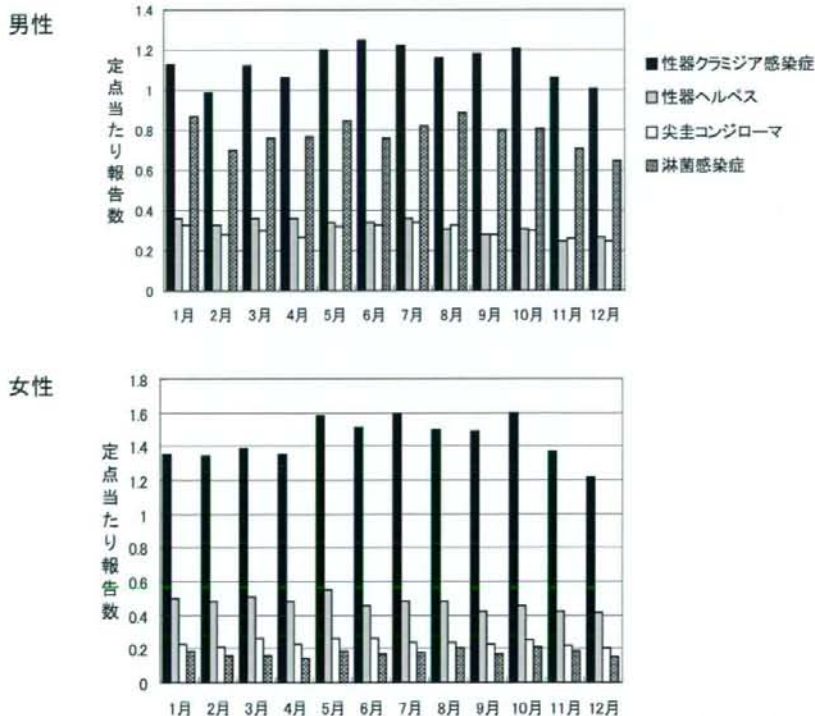
2009年1月13日現在

図6. 感染症発生動向調査による定点把握性感染症の男女比の年次推移



2009年1月13日現在

図7. 感染症発生動向調査による定点把握性感染症の月別報告数(2007年)



2009年1月13日現在



表1. 感染症発生動向調査における都道府県別 STD 定点数

|      | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 | 2008<br>(12月) |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---------------|
| 総数   | 855  | 897  | 911  | 917  | 920  | 916  | 931  | 946  | 968  | 967           |
| 北海道  | 41   | 44   | 43   | 41   | 42   | 41   | 42   | 42   | 42   | 42            |
| 青森県  | 13   | 14   | 12   | 12   | 13   | 13   | 13   | 13   | 12   | 13            |
| 岩手県  | 12   | 13   | 13   | 13   | 13   | 13   | 13   | 13   | 13   | 15            |
| 宮城県  | 17   | 17   | 18   | 18   | 18   | 18   | 18   | 19   | 19   | 19            |
| 秋田県  | 11   | 14   | 14   | 14   | 14   | 14   | 13   | 14   | 14   | 14            |
| 山形県  | 10   | 10   | 9    | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 9             |
| 福島県  | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 21   | 20   | 16            |
| 茨城県  | 20   | 20   | 17   | 21   | 21   | 21   | 21   | 21   | 21   | 22            |
| 栃木県  | 15   | 15   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 17            |
| 群馬県  | 24   | 25   | 24   | 25   | 25   | 25   | 25   | 26   | 26   | 26            |
| 埼玉県  | 36   | 47   | 51   | 50   | 50   | 50   | 52   | 53   | 55   | 56            |
| 千葉県  | 34   | 39   | 39   | 39   | 37   | 38   | 43   | 38   | 37   | 38            |
| 東京都  | 40   | 39   | 41   | 40   | 41   | 41   | 41   | 40   | 51   | 54            |
| 神奈川県 | 55   | 59   | 60   | 60   | 60   | 60   | 60   | 57   | 58   | 55            |
| 新潟県  | 19   | 19   | 19   | 19   | 19   | 20   | 17   | 15   | 15   | 15            |
| 富山県  | 6    | 7    | 7    | 7    | 7    | 7    | 7    | 10   | 10   | 10            |
| 石川県  | 9    | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10            |
| 福井県  | 4    | 4    | 4    | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 5             |
| 山梨県  | 5    | 5    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 8    | 9    | 9             |
| 長野県  | 14   | 15   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16            |
| 岐阜県  | 14   | 15   | 15   | 15   | 15   | 15   | 15   | 15   | 14   | 14            |
| 静岡県  | 29   | 30   | 31   | 30   | 30   | 29   | 30   | 29   | 30   | 30            |
| 愛知県  | 50   | 50   | 51   | 50   | 51   | 51   | 51   | 57   | 61   | 64            |
| 三重県  | 14   | 15   | 14   | 13   | 15   | 15   | 15   | 15   | 15   | 15            |
| 滋賀県  | 9    | 8    | 9    | 9    | 9    | 9    | 9    | 8    | 9    | 9             |
| 京都府  | 23   | 23   | 22   | 21   | 22   | 22   | 22   | 22   | 22   | 23            |
| 大阪府  | 45   | 54   | 59   | 59   | 58   | 59   | 59   | 63   | 63   | 63            |
| 兵庫県  | 45   | 45   | 46   | 46   | 45   | 47   | 51   | 46   | 46   | 46            |
| 奈良県  | 9    | 9    | 9    | 9    | 8    | 9    | 9    | 9    | 9    | 9             |
| 和歌山県 | 8    | 8    | 8    | 8    | 8    | 8    | 8    | 7    | 8    | 8             |
| 鳥取県  | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 5    | 4    | 5             |
| 島根県  | 5    | 5    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6             |
| 岡山県  | 16   | 17   | 17   | 15   | 17   | 17   | 16   | 21   | 22   | 22            |
| 広島県  | 28   | 25   | 23   | 27   | 26   | 27   | 27   | 22   | 23   | 23            |
| 山口県  | 11   | 11   | 12   | 12   | 12   | 12   | 12   | 10   | 11   | 12            |
| 徳島県  | 5    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 8    | 6             |
| 香川県  | 8    | 9    | 9    | 9    | 9    | 7    | 7    | 13   | 15   | 15            |
| 愛媛県  | 10   | 11   | 11   | 11   | 11   | 11   | 11   | 11   | 11   | 11            |
| 高知県  | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6    | 6             |
| 福岡県  | 16   | 24   | 34   | 37   | 37   | 31   | 38   | 37   | 38   | 38            |
| 佐賀県  | 6    | 7    | 7    | 7    | 7    | 7    | 7    | 7    | 7    | 7             |
| 長崎県  | 10   | 10   | 7    | 9    | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10            |
| 熊本県  | 14   | 14   | 14   | 14   | 14   | 14   | 13   | 13   | 13   | 13            |
| 大分県  | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10   | 10            |
| 宮崎県  | 11   | 11   | 11   | 11   | 11   | 11   | 11   | 10   | 13   | 13            |
| 鹿児島県 | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 16   | 15   | 16   | 16            |
| 沖縄県  | 11   | 11   | 11   | 12   | 12   | 12   | 12   | 12   | 12   | 12            |

2009年1月13日現在

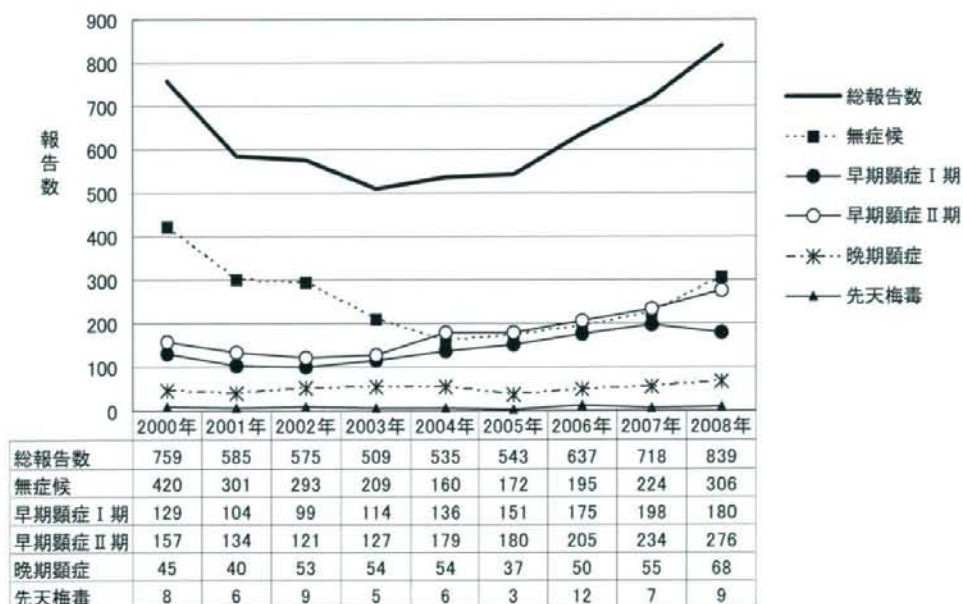
※1999～2007年は各月に報告のあった定点数の平均数、2008年は12月に報告のあった定点数を表示。

表2. 感染症発生動向調査におけるSTD定点の診療科内訳(2008年)

|     | 産婦人科系 | 泌尿器科 | 皮膚科 | 性病科 | 合計  |
|-----|-------|------|-----|-----|-----|
| 1月  | 464   | 398  | 89  | 14  | 965 |
| 2月  | 463   | 399  | 89  | 14  | 965 |
| 3月  | 465   | 400  | 89  | 14  | 968 |
| 4月  | 463   | 396  | 90  | 14  | 963 |
| 5月  | 461   | 396  | 90  | 14  | 961 |
| 6月  | 466   | 397  | 93  | 14  | 970 |
| 7月  | 462   | 396  | 91  | 14  | 963 |
| 8月  | 466   | 394  | 92  | 14  | 966 |
| 9月  | 466   | 401  | 92  | 14  | 973 |
| 10月 | 464   | 394  | 91  | 14  | 963 |
| 11月 | 464   | 396  | 91  | 14  | 965 |
| 12月 | 464   | 397  | 92  | 14  | 967 |
| 平均  | 464   | 397  | 91  | 14  | 966 |

※各月の集計時に報告した定点による。2009年1月13日現在  
一年間の平均では産婦人科系49%、泌尿器科系41%、皮膚科9%、性病科1%

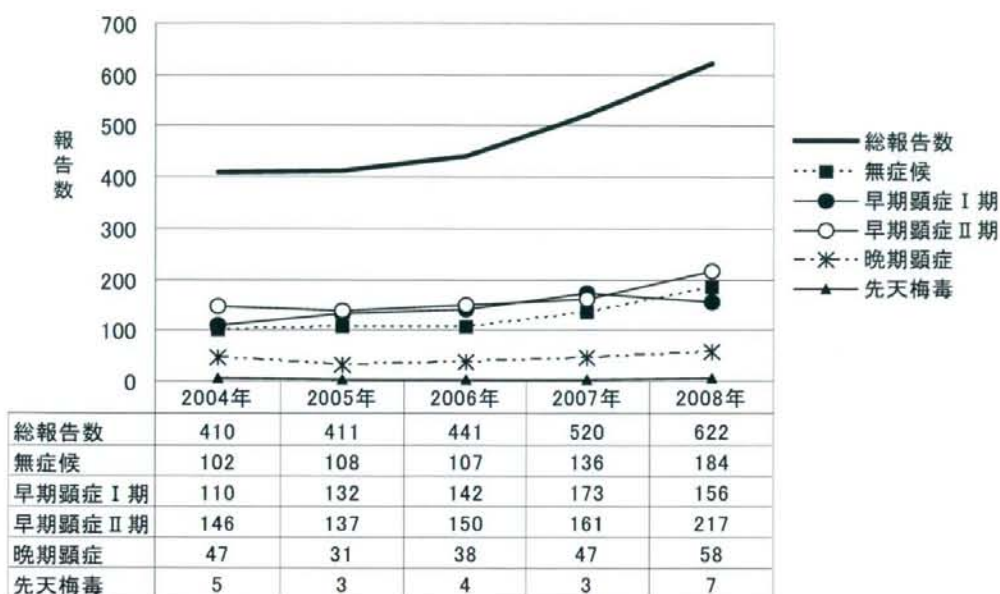
図8. 感染症発生動向調査による梅毒報告数の年次推移(男女総数)(2000~2008年)



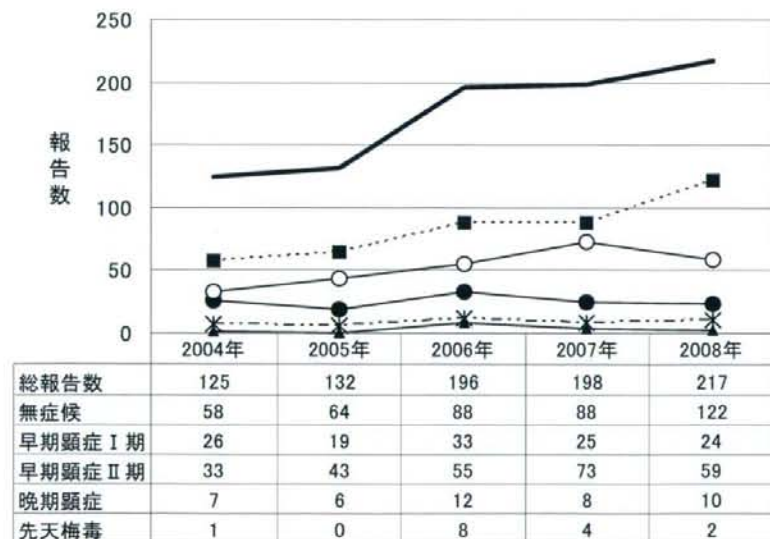
2009年3月5日現在

図9. 感染症発生動向調査による梅毒報告数の年次推移(男女別)(2000~2008年)

男性



女性



2009年3月5日現在

図10. 感染症発生動向調査による梅毒の病型分布(2007年)

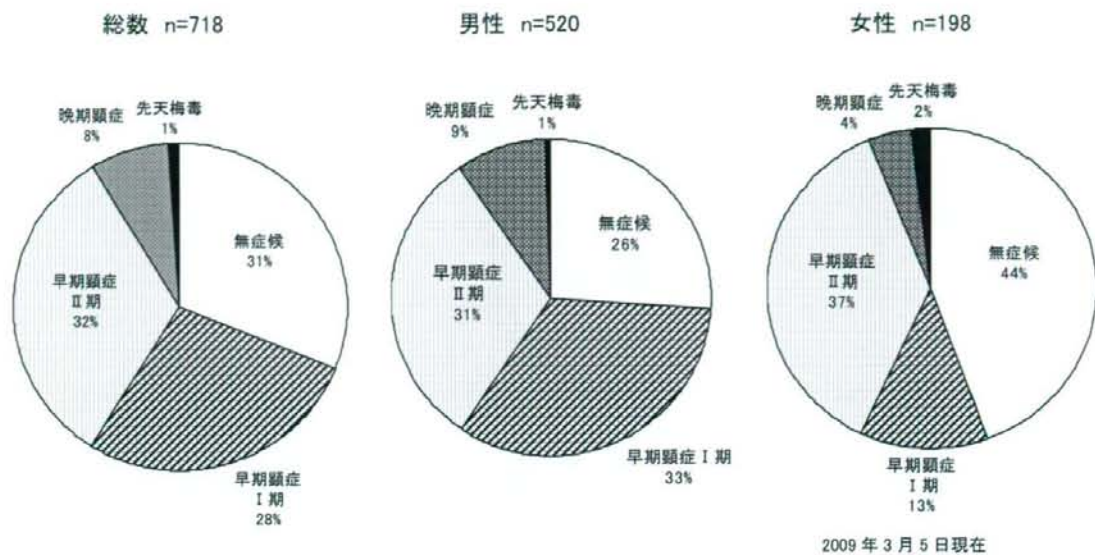


図11. 感染症発生動向調査による梅毒の年齢群別病型分布(2007年) n=718

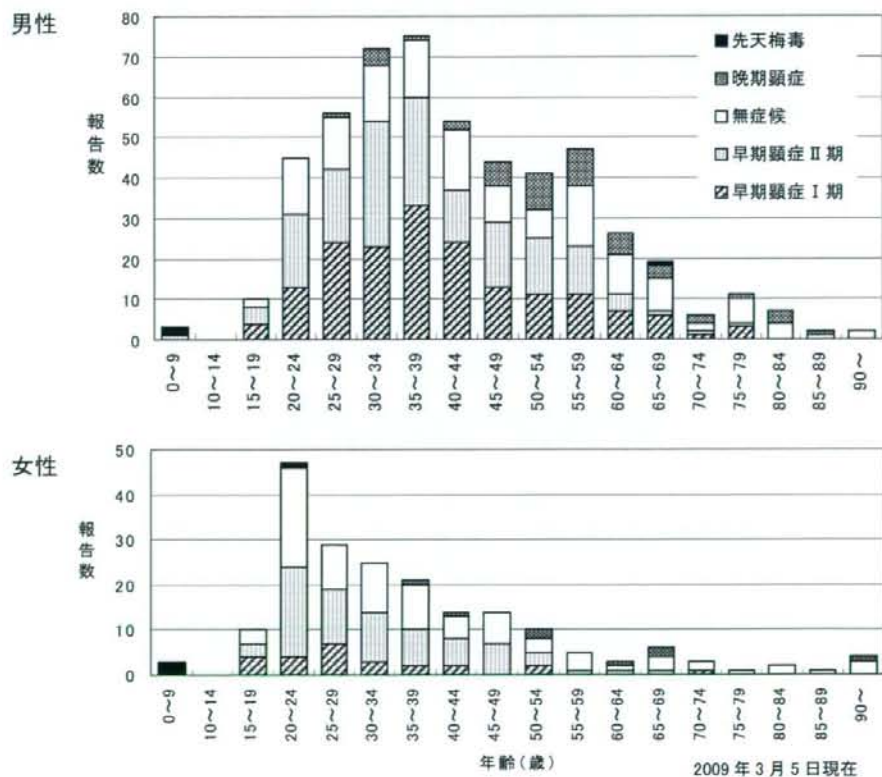


図12. 感染症発生動向調査による無症候及び早期顕症梅毒の年齢群別報告数の年次推移 (2004～2008年)

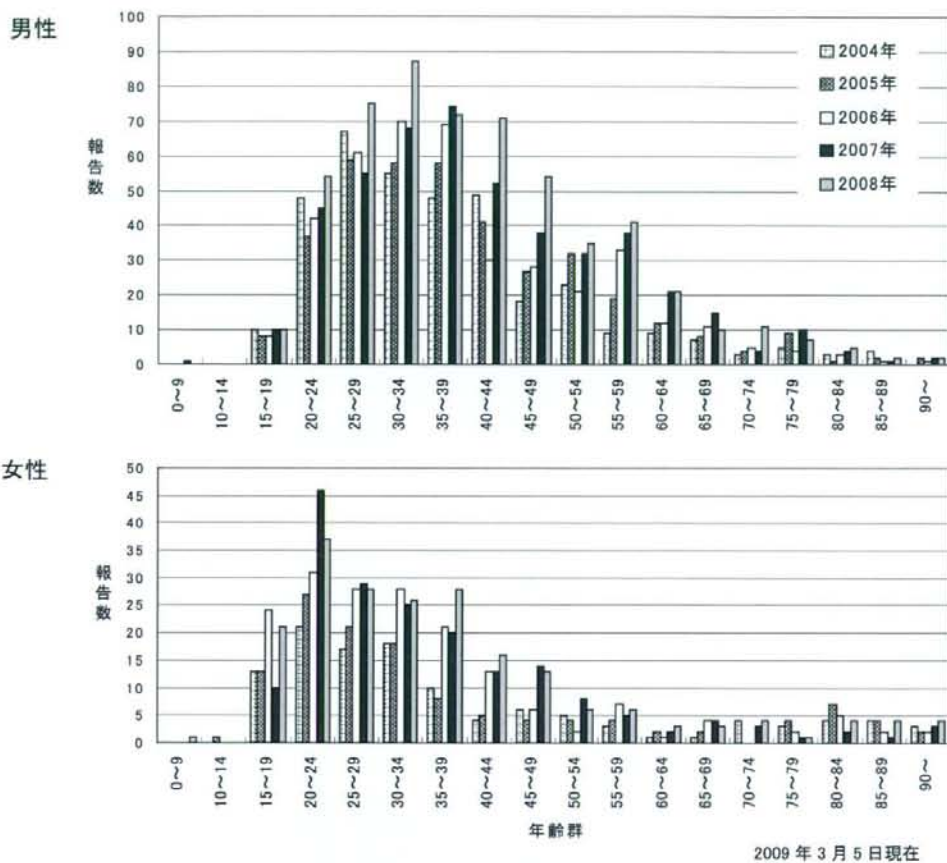
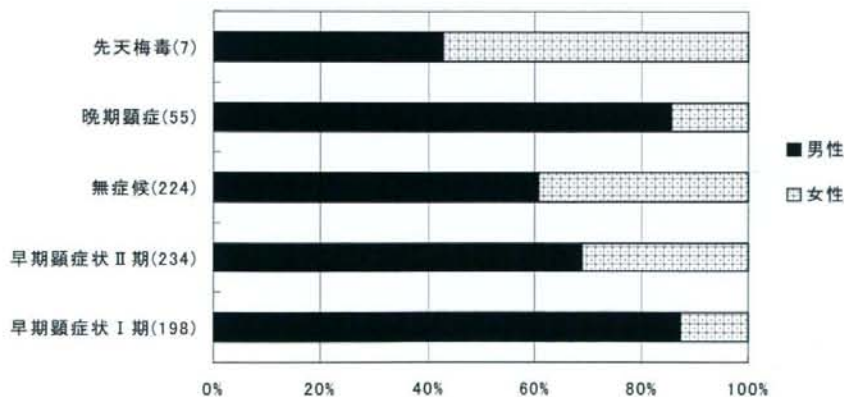
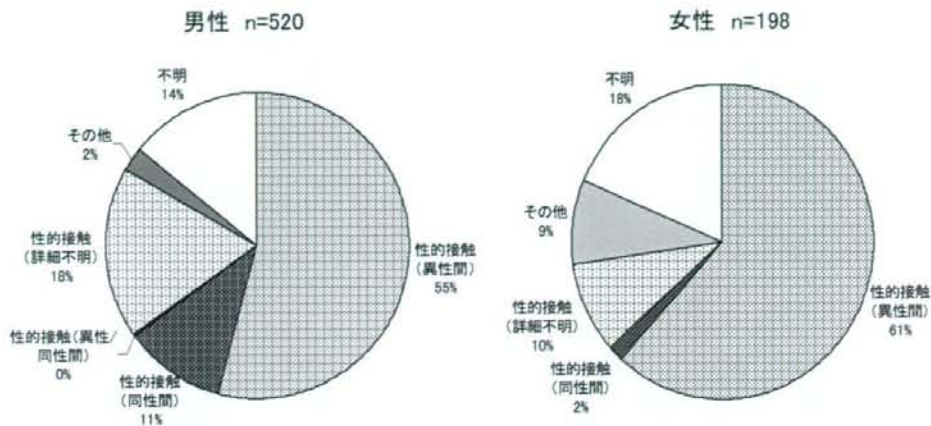


図13. 感染症発生動向調査による梅毒の性分布(2007年) n=718



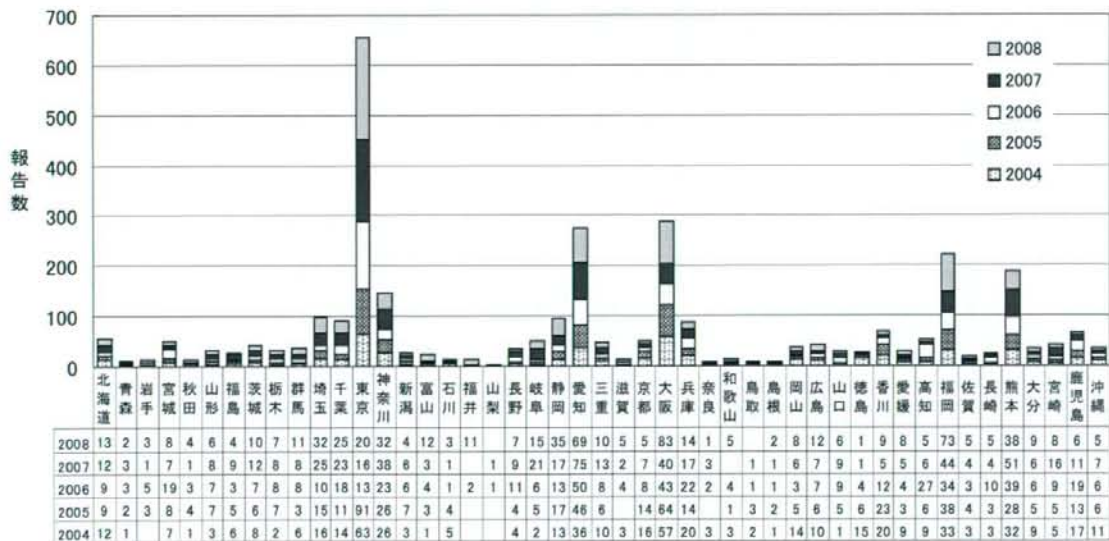
2009年3月5日現在

図14. 感染症発生動向調査による梅毒の感染経路(2007年)



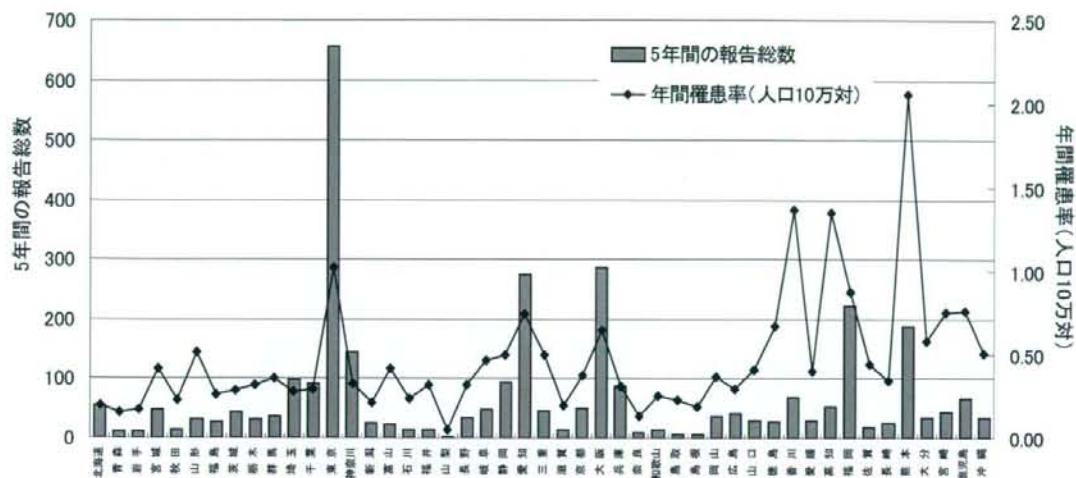
2009年3月5日現在

図15. 感染症発生動向調査による梅毒の都道府県別報告数(2004~2008年)



2009年3月5日現在

図16. 感染症発生動向調査による梅毒の都道府県別報告数と罹患率(2004~2008年)



※年間罹患率は5年間を平均し、2007年10月1日現在人口により算出

2009年3月5日現在

平成20年度厚生労働科学研究費(新興・再興感染症研究事業)  
「性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究」  
分担研究報告書「性感染症の患者数全数把握の試み:2006-2008」

分担研究者 大日康史 国立感染症研究所感染症情報センター  
岡部信彦 国立感染症研究所感染症情報センター

### 要旨

目的:本研究では、性感染症の実態を把握するために全数把握を行う。本稿ではこれまでの3年間に実施されてきた全数把握の状況を踏まえてまとめる。

方法:千葉県、兵庫県、石川県、岐阜県の4県は3年間、岩手県、茨城県、徳島県は2007年からの2年間参加した。対象疾患は、梅毒、淋菌感染症、咽頭淋菌感染症、非淋菌性尿道炎、性器ヘルペスウイルス感染症(初発あるいは初感染)、性器ヘルペスウイルス感染症(再発)、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症(発症者)、性器クラミジア感染症(妊婦健診)、咽頭クラミジア感染症とした。

結果と考察:発生動向と本研究の調査の傾向が最も一致していたのは性器クラミジア感染症で、次いで性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマと淋菌感染症は最も少なかった。

#### A. 目的

性感染症の定点把握疾患に関しては、他の定点把握疾患以上に定点選択の困難さ、その代表性が問題視されている。それを評価するためには実態を把握する必要がありその意味で全数把握が必要となる。本稿ではこれまでの3年間に実施されてきた全数把握の状況<sup>1,2)</sup>を

踏まえてまとめる。

#### B. 方法

地域的には千葉県、兵庫県、石川県、岐阜県の4県は3年間、岩手県、茨城県、徳島県は2007年からの2年間参加した。最初の2年間は各年の11月、2008年は9月1ヶ月間での



皮膚科・泌尿器科・産婦人科・性病科で以下の該当疾患に対して全数把握を行った。対象疾患は、梅毒、淋菌感染症、咽頭淋菌感染症、非淋菌性尿道炎、性器ヘルペスウイルス感染症（初発あるいは初感染）、性器ヘルペスウイルス感染症（再発）、尖圭コンジローマ、性器クラジミア感染症（発症者）、性器クラジミア感染（妊婦健診）、咽頭クラジミア感染症とした。

全数把握疾患の梅毒、定点把握4疾患（淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、性器クラジミア感染症）の報告基準は感染症発生動向調査における各疾患の報告基準を準用した。

評価は3年ないし2年間の疾患ごとの性別、年齢群別の人口10万対での報告件数を示す。また、発生動向調査に対象となっている5疾患に関しては、発生動向での報告数も人口10万対として比較する。

発生動向と本調査の一致度を評価するために以下の推定を行う。つまり、本調査での疾患別県別性別年齢群別報告数を被説明変数とし、発生動向調査での疾患別県別性別年齢群別報告数、および調査年ダミー、年齢群ダミーに回帰させる。この推定における発生動向

調査での疾患別県別性別年齢群別報告数が正で有意の場合には、発生動向調査が増加（減少）した際に本調査での疾患別県別性別年齢群別報告数も増加（減少）していることを意味する。

### C. 結果

図1-1～10、～10-1～10には疾患ごと最初に各県、続いて4県合計（3年分）と7県合計（2年分）がまとめられている。また各図には、年齢計での人口10万対の頻度を示している。

また、図11-1～4、～図12-1～4には発生動向調査における4疾患における、本報告での医療機関ごとの報告頻度の分布を示している。特に、定点医療機関のであるか否かを色で示している。

推定結果は表1にまとめられている。発生動向調査の推定値が正で有意なのは性器クラジミア感染症では、千葉（男性）、石川（男性・女性）、岐阜（男性）、徳島（女性）、7県計（女性）、性器ヘルペスウイルス感染症では、千葉（女性）、岐阜（男性）、徳島（男性）、茨城（男性）、尖圭コンジローマでは、岩手（女性）、兵庫（男性）、徳島（男性）、淋菌感染症では、

岩手(男性・女性)、7県計(男性)であった。

#### D. 考察

4つの発生動向調査における定点把握感染症の内、最も多くで発生動向調査と本調査の傾向が一致していたのは、性器クラミジア感染症で7回、性器ヘルペスウイルス感染症で5回、尖圭コンジローマと淋菌感染症でそれぞれ3回であった。特に石川県における性器クラミジア感染症では、男性も女性も有意であった。

本調査の協力医療機関が毎年大きく変化することは考えにくい、脱落は当然起こるので、微妙な変化はその影響を受けていることは否定できない。

#### E. 結論

本来であれば医療機関名で名寄せして、2ないし3年間継続して回答のあった医療機関のみを検討の対象とすることがより好ましいが、医療機関名が読み取れない回答が少なくなく、現時点では実現に至っていない。調査票配布時点でコードを付して配布するなど、工夫が必要であると考えられた。

#### 参考文献

- [1] 大日康史・岡部信彦,「性感染症の患者数全数把握の試み」,平成18年度厚生労働科学研究費(新興・再興感染症研究事業)「性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究」,2007.
- [2] 大日康史・岡部信彦,「性感染症の患者数全数把握の試み」,平成19年度厚生労働科学研究費(新興・再興感染症研究事業)「性感染症に関する特定感染症予防指針の推進に関する研究」,2008.

(熊本班)

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 論文発表

特になし

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

特になし

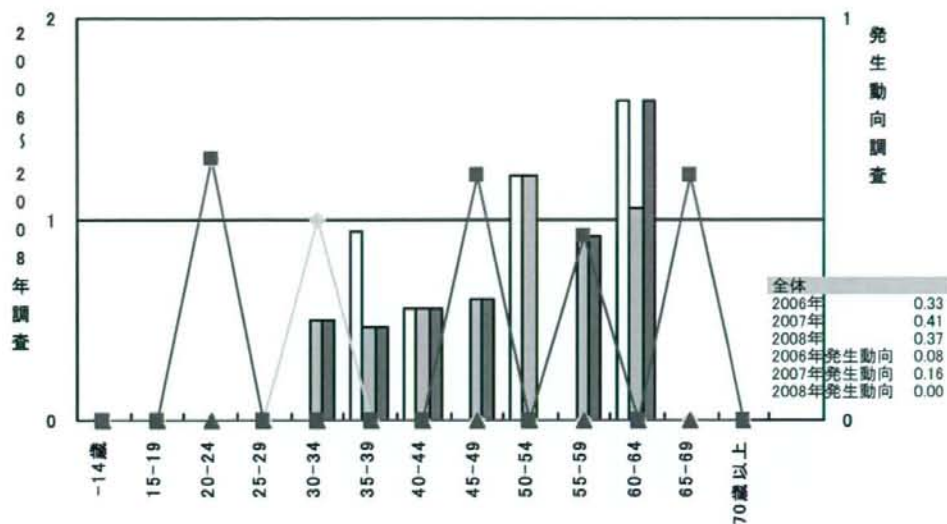
表1：推定結果

|     |    | 性器クラミジア感染症 |       | 性器ヘルペスウイルス感染症 |       | 尖圭コンジローマ  |       | 淋菌感染症     |       |
|-----|----|------------|-------|---------------|-------|-----------|-------|-----------|-------|
|     |    | 推定値        | 確率値   | 推定値           | 確率値   | 推定値       | 確率値   | 推定値       | 確率値   |
| 岩手  | 男性 | 1.106685   | 0.125 | .5908764      | 0.593 | .3934362  | 0.417 | 1.610233  | 0.000 |
|     | 女性 | .7460588   | 0.388 | 1.617296      | 0.065 | 1.976682  | 0.013 | 2.743151  | 0.000 |
| 千葉  | 男性 | 1.402271   | 0.010 | -.182942      | 0.501 | .6133469  | 0.221 | .3486219  | 0.407 |
|     | 女性 | -.9640195  | 0.009 | 1.626227      | 0.003 | -.4673834 | 0.358 | .4846051  | 0.373 |
| 石川  | 男性 | .9472526   | 0.000 | -.0078389     | 0.957 | .2917466  | 0.584 | .2120552  | 0.524 |
|     | 女性 | 1.526212   | 0.000 | .466577       | 0.418 | .7290817  | 0.697 | .7355346  | 0.135 |
| 岐阜  | 男性 | 1.11962    | 0.010 | .447918       | 0.017 | .4762788  | 0.171 | .4160927  | 0.178 |
|     | 女性 | -.2936271  | 0.809 | -.2148535     | 0.787 | -.2393736 | 0.646 | -1.319509 | 0.099 |
| 兵庫  | 男性 | .0770505   | 0.714 | .5699356      | 0.079 | .3943616  | 0.018 | .5379561  | 0.099 |
|     | 女性 | .1499528   | 0.704 | .2472241      | 0.375 | .8520697  | 0.155 | -.0263785 | 0.810 |
| 徳島  | 男性 | -.3444819  | 0.459 | 1.049046      | 0.004 | 1.862017  | 0.004 | .2782168  | 0.581 |
|     | 女性 | 1.90966    | 0.008 | .9629968      | 0.392 | -2.261856 | 0.001 | NA        | NA    |
| 茨城  | 男性 | 1.277845   | 0.127 | 1.25195       | 0.031 | -3.748624 | 0.050 | 1.108171  | 0.166 |
|     | 女性 | -3.152366  | 0.038 | .1052873      | 0.654 | .5731151  | 0.509 | -1.388342 | 0.331 |
| 4県計 | 男性 | .1385839   | 0.626 | .4580918      | 0.145 | .5318048  | 0.077 | .5504464  | 0.252 |
|     | 女性 | .1748578   | 0.758 | .403607       | 0.471 | -.8833225 | 0.122 | -.1034946 | 0.668 |
| 7県計 | 男性 | -.063738   | 0.900 | .1111609      | 0.664 | .0113712  | 0.978 | 1.499893  | 0.005 |
|     | 女性 | 5.257021   | 0.002 | .3377554      | 0.601 | .3910294  | 0.708 | -.3258346 | 0.356 |

図1-1. 梅毒(男) ※人口10万人あたり



兵庫県



千葉県

